

## 神奈川県作業療法士会ニュース160号 目次

|    |                 |
|----|-----------------|
| 1  | 巻頭言             |
| 2  | 田中先生インタビュー      |
| 4  | こんな人たちに会ってきた    |
| 8  | 豆知識 パラリンピックとは   |
| 9  | 対外広報班活動報告       |
| 10 | 県学会実行委員会からのお知らせ |
| 12 | 地域リハ部のページ       |

|    |                  |
|----|------------------|
| 14 | O TのためのIT講座（最終回） |
| 16 | 各部からのお知らせ        |
| 17 | 理事会報告            |
| 18 | 求人広告             |
| 19 | 講習会案内            |
| 20 | 青年海外協力隊通信（第13回）  |

## 巻頭言

### 小田原学会は世界への扉となる！

第14回神奈川県作業療法学会 実行委員長 鈴木 孝治



神奈川県作業療法士会の会員みなさま、第14回神奈川県作業療法学会の開催が秒読みの段階となりました。実行委員一同、最終段階の準備に入っており、気の抜けない毎日を送っております。

この小田原での学会は、県士会のニュースやホームページでお伝えしているように、「つなげよう過去から未来へ」をテーマとしており、まずは、日本の作業療法のパイオニア世代からその次の世代、そして現在の会員へと、「知識、わざ、思い」を伝える「縦系」を基本に、シンポジウムの人選を行いました。そして、「横系」はこれまでの日本の作業療法で伝統的に用いられてきた、身体、精神、発達の各分野を設定しましたので、会員各自に参加したい分野に加わっていただき、パイオニア世代からの作業療法の真骨頂を肌で感じ取っていただきたい。この縦系、横系を紡ぐのは、皆さんですが、残念ながら時間的な制約もあり、一人ですべての分野に参加できるように工夫が凝らさませんでした。したがって、友達や、知り合いなどと事前に相談しながら、戦略的に分科会に出席し、後日、意見交換するなどの積極的な参加をしていただければと思います。このような参加方法は、作業療法の各分野に共通の基盤である「作業療法の核」を見出すきっかけとなり

ますし、神奈川県作業療法士会の発展につながると思います。

来年は、世界作業療法士連盟の第16回世界大会が日本で開催されます。世界の大会は、自らが他国に赴き発表し、日本の特徴を伝えるという側面もありますが、今回は我々日本人が主催者となって、海外からの参加者に日本の良さをその場で直に伝えることができ、そのメリットはとても大きいのです。その開催地は、横浜です。つまり神奈川県作業療法士会は開催地の組織ですので、我々神奈川県の会員は、神奈川の、そして日本の作業療法の歴史を知っていなければ、海外からの参加者を十分に案内することはできません。神奈川の作業療法の歴史は、ある意味、日本の作業療法の歴史でもありますので、是非、小田原の学会で十分な議論と交流を深め、世界への発信の糧としてください。

小田原学会で得た知見は、横浜で開催される世界大会への発信のきっかけとなります。

「小田原発、横浜経由全世界行き」、がいよいよこの4月に始まります。

温暖でお魚の美味しい小田原で、皆さまとお会いできる日を楽しみにしております。

## 神奈川県保健衛生表彰受章者 田中節子先生にインタビュー



### 田中節子 先生 プロフィール

**学 歴：**神奈川県立長浜看護学院卒業、厚生省主催 作業療法士国家試験受験認定長期研修

**職 歴：**神奈川県立精神医療センター芹香病院、神戸大学医学部保健学科講師 横浜YMCA学院専門学校 学科長を経て現在顧問

**所属団体：**(社) 日本作業療法士協会、(社) 神奈川県作業療法士会、日本集団精神療法学会  
(元) 神奈川県作業療法士会副会長、同監事

**著 書：**評価技法としての観察と面接、自己概念・対人関係の評価（作業療法技術ガイド、文光堂）、県立芹香院作業療法の歴史ー創立50周年を迎えてー（県立芹香院50周年誌）他

### 資格・免許

看護師 作業療法士、日本作業療法士協会認定作業療法士 池の坊華道師範教授

—このたびは受章おめでとうございます。受章の感想をお聞かせください。

個人の喜びもさることながら、たくさんの医療職の中で作業療法士という職業が社会的に評価を受けて認知され、表彰の対象となったことがなによりもうれしいと感じています。

—先生は作業療法士のパイオニアですが、当時あまり知られていなかった「作業療法士」という職業を選ばれたいきさつについて教えてください。

看護学校在学当時は、卒業して保健師になろうと考えていました。その時教務主任の先生から臨床を経験してから保健師になることを勧められ、神奈川県職員採用試験を受け、芹香院（現在の県立精神医療センター）で働くことになりました。就職して2年後、作業療法科の所属の看護師が引退することになり代わりに担当してみないかと声をかけられました。当時の作業療法は看護師が担当しており、たまたまそこに配属されることになったわけです。その作業療法科で働いて4年目に2カ月の研修を受けることになり、できて間もない第4回の作業療法士国家資格試験に合格しました。特に作業療法士になろうと思っていたわけではなかったのですが、今振り返ってみると、作業療法をするということが私に定められた職業だったのかなあ～と感じています。

—先生が作業療法の経験を重ねる上で、モデルになった先輩や恩師はいらっしゃいますか？

当時先輩はいませんでしたし、学生の実習指導も手探り状態でした。千差万別の学生を指導しているときに私自身がつまづいて先に進めなくなりました。その時、東京臨床心理士研修会で水島恵一先生（当時文教大学学部長）のグループワークを受ける誘いがあって、行き詰った自分自身を振り返る機会を持つことができました。水島先生は私に道を開いて下さった恩師であり、先生との出会いがなかったら今の私はないと思います。

また、「精神科作業療法の手引き」の著者の松井紀和先生は、私が作業療法を構築していく上での原

点になりました。お二人の講座にはそれぞれ3年ずつ通って勉強しましたが、実は先生同士が知り合いだったそうです。人と人とは知らない間にいろいろなところでつながっていると感じました。

### —先生が担当された患者さんで忘れられない方はいますか？

担当した方は大勢いて一人一人が忘れられません。その中で、いまでも家族ぐるみで付き合いが続いている方が2人います。

一人は、デイケアで初めて担当した患者さんで、主治医と私で入院させずに支援を続けた方です。現在ではその方なりに社会復帰しています。先日その方から最近の自分のことを聞いてほしいと連絡がありました。

もう一人は、お母様が亡くなられて危険な状態になった方で、お兄様ご夫婦が芹香院に連れてこられました。この方もデイケアで関わり、以後今日までお付き合いが続いています。現在はお兄様ご夫婦と暮らしていますが、庭にできた柿やふきのとうなどを時折り送ってこられます。私にとっても忘れられない方の一人です。

臨床経験が長いので、患者さんとのことを語ったらきりがないうちの方との思い出があります。

### —先生にとって作業療法とは何でしょう？

作業療法は自分自身を活かす仕事だと思っています。当初は作業療法士になろうとは思っていませんでしたから…。たまたまこの道に踏み出し臨床を重ねていく中で、患者さんとの交わりの中に自分自身が成長する機会があって、多くの人との出会いもあり、作業療法士はもとより、他の医療スタッフ他沢山の友人も出来ました。作業療法は私自身を活かすことができる生涯の仕事だと思っています。

### —経験の浅い作業療法士へのメッセージをおねがいします。

対象者としてしっかり向かい合ってほしい。患者（利用者）さんと向き合うことで、作業療法士としての自分、人間として自分の成長の機会がもらえます。

すぐには分からないことですが、何年か続けていくと自分と向き合うということの意味や、作業療法という仕事の意味が分かってくると思います。人と人とが触れあって、そこで何かを分かち合うという経験から“役に立った”とか、“意味があった”とか自分自身の価値が生まれてきます。若い作業療法士の方には、“自分自身と向き合い”、さらに“自分自身と向き合う自分”と向き合ってほしいと思っています。これはまさに「治療的自己の活用」であり、自分を活動として使う作業療法のアクティビティそのものです。

今回のインタビューを通して、これまで関わってきた患者さんや、実習生、仲間のことを久しぶりに思い出して改めて、“作業療法を行ってきた過程”が、自分の大きな財産になっていることを実感しました。くりかえしになりますが人は人と関わりあいながら、向き合いながら生きているのだと思います。作業療法を通じたこのつながりは、私自身が選んできたことではありますが、何か運命的なものを感じます。

今回はたいへん貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございました。

平成25年2月5日横浜YMCA学院にて  
インタビュー：金山桂

構成：松本政悦





## こんな人たちに 会ってきた



### ～ロンドンパラリンピック 出場選手にインタビュー～



加藤有紀さん



多川知希さん

今回お話を伺ったのは、神奈川県在住で、第14回 ロンドンパラリンピックに出場された陸上競技選手の加藤有紀さんと多川知希さんのおふたりです。

加藤さんは2004年から、多川さんは2008年からパラリンピックに出場されていますが、その他の国内外の大会でも多くの記録を残されています。なかなか耳にする機会のないパラリンピックの世界や彼らの陸上にかかる思いなどを伺ってきました。

1人目はロンドンパラリンピックで陸上女子（脳性マヒ）100m、200mに参加した加藤有紀さんです。

加藤さんはアテトーゼ型脳性麻痺で、今大会ではT36クラスに参加しました。T36クラスとは、「歩行可能なアテトーゼが失調型で、不随意的動きがあるが走ることもできる」クラスです。2004年のアテネ大会から3大会連続で出場しています。今大会では100m 8位、200m 5位の成績を修めました。加藤さんはコーチでもあるご主人と2人暮らしで、平日は東京まで電車通勤する会社員です。週末や仕事後に自宅周辺や横浜ラポールなどで練習をしています。

#### ◎パラリンピックに出場するまで

子供のころから走るのが好きでしたが、性格的にも内気で消極的な子で、学生時代は特定のクラブ活動に所属はせず、体育祭などでリレー選手として出場する程度でした。1996年に同じ障害のある人達と東京都スポーツ大会に参加することにしました。これが自分から何かをしたい、と意思表示した初めての出来事です。この大会で金メダルを獲得し、その後も大会に出場し続けました。98年、神奈川県で身体障害者国体が開かれた時には、陸上を続けていきたいという気持ちも固まっていたので、翌年日本身体障害者陸上競技連盟に選手登録を済ませました。これによって、全国レベルの大会への出場が可能になりました。2000年九州チャレンジカップでいきなりA標準\*に届く好成績を修めることができ、パラリンピックへの出場が実現可能な目標となりました。

しかし、その後の大会でタイムが伸びず、日本代表には選ばれませんでした。しかし、選ばれなかったことで、私の陸上競技人生が本格的に始まることになりました。

\*A標準とは：代表に選考されるための参加標準記録のことで、A標準とB標準とあります。A標準を突破していれば1カ国3人、B標準なら1人だけが代表となれます。

#### ◎2004年アテネパラリンピックにて

この大会では100mで銅メダルを獲得。200m 4位の成績でした。コンディショニングもよかったので、もっと上のメダルを狙える可能性は十分あったと思います。しかしなんと、200m召集10分前に夫婦喧嘩が勃発。その結果、全身に硬直が入ってしまい、うまく力を出し切れませんでした。

#### ◎2008年北京パラリンピックにて

アテネ大会メダリストで、周囲からの期待も大きかったのですが、2007年2月 練習中に左股関節の肉離れを起こし、翌月の選考レースへは痛みを抱えながら出場することになってしまいました。トレーナーを付けて練習してきましたが全く走れず、棄権しました。2007年9月のジャパンパラ大会までには回復でき、100mでどうにかA標準を突破。コーチで

ある夫は北京大会を諦めていましたが、私自身は違いました。そして結果的には、北京大会代表の座を勝ち取りました。代表が決まってからもハプニングは続きました。顎関節症の治療をしたら更に症状が悪化してしまい、顎の痛みが背中、腰、下半身へと広がって、体がより硬直しやすい状態になってしまいました。この歯科治療は現在も続いています。

この大会では100m 4位、200m 5位の結果となりました。

### ◎2012年ロンドンパラリンピックでは

今大会から競技出場選手が増えたことで、予選と決勝を行うようになりました。予選、決勝は同日に行われますが、100mと200mの間は一週間もあって、その間ずっと緊張し通しました。

選手以外の方が選手村に入ることは認められておられず、特に今回はテロ対策もあって、警備が物々しく、マシンガンを持った兵士の姿も多く目に付きました。また、火気厳禁で炊飯器などは「爆発物に改造できる」理由で持ち込み禁止。「平和の祭典」であるはずなのに、なにか違和感を抱きました。

選手村は相部屋。競技種目や出場日程も異なり、相手の競技日に合わせても生活しなくてはならないという暗黙のルールもあって、お互いかなり気を遣いました。とはいえ、やはりパラリンピック発祥の地だからなのか、現地の方の関心は高かったように思います。フィールド上で行われている全ての競技に観客の方々は惜しみない声援を送っていました。競技場外でも特設モニターが設置されていて、多くの人が見入っていました。大勢の声援の中で走るということは、走る前も、走った後も、とても気持ちいいです。

ロンドン大会では100m 8位、200m 5位という結果でした。

### ◎リオデジャネイロパラリンピックについて

4年後になると、年齢的にはちょっとキツイかもしれません。陸上を始めたころは、自分が走りたから走っていました。けれども出場回数が増える程、成果を求められることや、周囲の期待に答えなければいけない気持ちなど色々なしなみが出てきて、練習を重ねるけれど結果が出せない、という焦りも生まれます。自分の時間もなくなってしまい、走ること自体面白くなってきていきます。今はリオ大会を目標とはせずに、ただ「走ること」に向き直りたいです。自分のために走り、目の前にある一つ一つの課題をクリアしていく中で、再び「リオ」が見えてきたら、そこに向けて頑張っていきたいと思っています。今は自分のために走ろうと思っていて、大小問わず、走れるイベントがあればいろいろな場面に参加しています。

### ◎パラリンピックの変化

北京大会まではどこか「世界的障害者スポーツの大会」といったお祭りのような要素を強く感じましたが、今大会ではより「競技大会化」されてきました。記録タイムも速くなってきて、出場国や選手数も増えてきています。日本ではまだまだ個人での練習が主体になっているので、これでは記録もなかなか伸ばせないでしょう。また、日本のナショナルトレーニングセンターを障害者が使うことも難しい状況です。今後、オリンピック、パラリンピック双方の選手が合同で合宿を張るなど、お互い刺激し合えばよいと思います。

### ◎障害と走ること

私の場合、アテトーゼが一旦強く出てしまうと自分でコントロールすることは出来ないの、いかに







症状を最小限に抑えるかがポイントになります。北京大会でのことですが、どんなに調子よくアップができて、試合直前のメンタル面が揺れてしまえば症状が出てしまいました。特に納得いかないことや突発的な出来事があると自分の意思とは無関係に体の硬直が入り、本来の力を発揮できなくなってしまいます。このことを悪利用して、わざとフライングして相手の動揺を誘発させる選手もいます。症状を抑えるには「無になる」ことが大切であり、そのためにメンタルトレーニングや催眠療法なども取り入れてみましたが、効果は今一つでした。なかなかアテナーの部分でコントロールすることが難しいです。競技生活が長いと、いろいろなプレッシャーが多いです…。試合では、ただ「気持ちよく走ろう」と思って走っています。

もしも走っていなかったら、毎日がつまらなかったと思います。多くの障害のある方が感じることで、「何が面白くて生きているんだろう」、「生きていていいのだろうか?」と日々自問していたと思います。陸上を通して得られたことは、「人と話せるようになった」ことです。人との関わりが増え、前向きな性格になりました。以前は自分の姿を気にして、いつもうつむき加減でしたが、今は自分のやりたいことが主張できるようになりました。

アテネ大会で走ることができた時、真に「障害者でよかった」と思いました。この体で生まれたことで、多くのことを体験し、パラリンピックに出場し、メダルを取れたのですから。

#### インタビューを終えて

今回、ご本人様とコーチでもあるご主人様と横浜ラポールでお話を伺ってきました。世界の大舞台で何度も戦ってきた方を前に、とても緊張しましたが、夫婦喧嘩の話や2人3脚で数々のトラブルを乗り越えた話などを時間を忘れて聞き入ってしまいました。

今は次のパラリンピックのことは考えず、走ることをただ楽しみたいと話されていましたが、いつまでも大好きな「走り」を続けていてもらいたいと思います。

2人目は、陸上男子100m走、200m走と400mリレーに参加された多川和希さん(27歳)です。

多川さんは先天的な右前腕欠損で、大会ではT46というクラスで出場しました。2大会連続出場者で、北京大会では惜しくも予選落ちとなってしまいましたが、ロンドン大会では100mで5位、400mリレーでは第一走者を務め、4位に入賞した実績があります。川崎で働く会社員で、週末や仕事後などに練習をしているそうです。

#### ◎パラリンピックに出るまで

中高時代は時折りリレーメンバーとして走ることはあっても、主に投てき選手としてプレーしていました。

大学に入ってから障害者競技という世界を知り、走ることは元々好きだったこともあって、短距離選手に移行しました。2004年秋の障害者国体で活躍できたことで、もっと走りを深めていきたい気持ちとなり、2005年にはチームに所属し、他の短距離選手達と一緒に練習するようになりました。2006年はオランダで開催された世界選手権に、同年12月にはアジア大会に出場し、2007年には北京大会のA標準に届き、2008年の北京パラリンピックへの参加が決定しました。

#### ◎北京パラリンピックでは

初のパラリンピックという大舞台への参加ということで、かなり緊張していました。けれど8万人もの観客の声援の中で走るのはやっぱり気持ちいいですね。この大会では緊張感もあって、アップの時間を長くしたり、スタミナをつけるために多く食べてみたりと、いつもとは違うことをやってしまいました。その結果、予選敗退…。この時、「もう一回挑戦したい!!」という気持ちになりました。練習を通じての試合なので、本番で「試しては」ダメなんですよ。北京大会の時に学びました。

けれど次のロンドン大会ではT46のクラスがなくなるかもしれない、といった話もあがり、それならばここで自分の競技人生が終わってもいいのかな、と思っていました。しかし結果的にはクラスはなくならず、ロンドン大会へ出場することが出来ました。

#### ◎ロンドンパラリンピックでは

前大会での反省点を踏まえて、今回は特別なことはやらず、「いつも通りに」、を努めて行うよう心掛けました。今大会では200m、リレー、100mの競技順序でしたが、最初の200mで予選落ちしてしまい、気持ちがだいぶ沈みました。次のリレーは前大会でバトントスが上手くいかずに失格になってしまったということや、第1走者というプレッシャーもありましたが、このリレーメンバーは本当に仲がよいので、幾分リラックスでき、4位という結果を残せました。続いて翌日の100mでは念願の決勝戦進出を果



たし、5位という記録を残せました。

今大会では過去の大会よりも陸上に興味を持ってくれた人が多かったように思えます。日本でのメディアでの取り上げられ方も良くなっている印象です。

### ◎リオデジャネイロパラリンピックについて

大会時は30歳になっています。  
毎年諸外国で世界大会があるので、それらに参加しながら考えてゆきたいと思います。

### ◎障害と走りについて

自分は先行逃げ切りタイプなので、100mの方が得意です。100mはスタートが大切。義手是北京大会から使うようになりました。義手を使っていない頃はクラウチングスタートの時、体が傾いていました。義手を着けるようになって、スタート時の安定性が増しました。さらに義手を使うことで右側を意識化できるのでバランスがよくなります。T46クラスの選手で義手を使っている方はそれほど多くはありませんが、自分は使ってよかったと思っています。

私は右前腕の欠損があるため、肩の筋肉のつき方に左右差があり、右が弱いです。肩の弱さは身体の対角線上に影響するので、右肩が弱いと左股関節が弱くなります。だから私はカーブが苦手です。このように、右手がないということは、単に体の一部がないということだけではなく、身体のバランスに影響します。障害者スポーツの興味深い所は、ただ目が見えない、ただ手足がない、だけではないのです。例えば見えている人が一時的に目隠しをして走った走りとは、日常的に目が見えない人が走った走りとは全く違います。視覚障害者は日々、見えない環境の中で生活して、それに適するように体を使い、そしてそれを越えてプレーしている、そんな凄さがあるのです。

### ◎走り続けること

走りについて、プロに転向するつもりはなく、こ



れからも仕事との2足の草鞋を履きながら、出来る所まではやっていきたいと思っています。自分に仕事と陸上とがあることで、毎日が忙しく過ごせてよいです。それに、応援してくれている人がいるので、口先だけにはなりたくありません。自分のやりたいことをやりたいし、かといって周りの人に特別扱いされたり、お膳立てされたりはしたくありません。環境を整えてもらうのではなく、自ら環境を作っていきたいと思います。周囲からの期待は重荷ではありません。最終的に後悔もしたくはありませんし。

走る時に大切なのは「自信」ですね。人一倍練習したぞ、という気持ちです。

そしてこれからも、走ることは続けていきたいと思っています。「障害」を持って生まれたからこそ、体験できたことも多いです、障害があっても何とかなるものですよ。

### ◎おわりに

加藤さんも多川さんも走る時は「無になる」そうです。無になれる位、日々練習を重ねて体の隅々に走りを染み込ませているのでしょう。

お二方とも、平日は仕事をし、週末や空いた時間に練習に取り組み、そして大会連続出場を果たしています。そんな、チャレンジし続ける人たちからお話を伺え、自分にももっともっと色々なことが出来るんじゃないかな、新しいことにもチャレンジしてみたいな、そんな前向きな気持ちにさせてくれる貴重な出会いとなりました。

(文責：菊地)







## ～パラリンピックについて～

● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

パラリンピック (Paralympic Games) という名称は元々、対麻痺を意味する「パラプレジア: Paraplegia」と「Olympic Games」との造語でしたが、出場選手の障害の多様化に伴って、1985年より「もう一つのオリンピックゲーム」として、平行を意味する「パラレル: Parallel」と「Olympic Games」の造語として新たに解釈されるようになりました。

大会では競技の公平性を持たせるため、障害の軽重や原因に応じた階級分けがあります。

例えば陸上競技では視覚障害はT11～T13、脳性麻痺はT32～38など、競技 (F: フィールド・T: トラックなど) の種類と障害の種類や軽重を数字化したもので組み合わせています。競技によっても異なるようですが、「視覚障害」「肢体不自由」「知的障害」などに大別され、肢体不自由でも、その中で原因が脳性麻痺なのか手足切断なのかによって分かります。運動失調・麻痺・歩行失調などの運動機能障害、義手・義足の装着や車椅子の有無などでも細かく分類されています。例えば、T11は重度視覚障害 (ガイド付添い、当人は完全遮断アイ・マスク装着)、T13は最低限の視覚を有する障害。T32～38は、運動機能障害アスリートに配分され、数字が少ない方が、より顕著な機能障害となっています。また、競技者の少ないクラスは廃止されたり、他のクラスと統合されることもあるようです。

パラリンピックの起源は1948年7月28日にロンドンオリンピック大会開会式と同日に、イギリスのストーク・マンデビル病院で行われた競技大会にあるとされています。これは当時戦争で負傷した兵士達のリハビリテーションとして行われたもので、この競技大会はその後も毎年開催され続け、1952年には国際ストーク・マンデビル競技大会に発展。1960年ではオリンピック開催国のローマで同競技

大会が開催されたことから、現在はこの年を第1回パラリンピックとも呼んでいるそうです。「パラリンピック」が正式名称となったのは1988年のソウル大会からですが、夏季、冬季ともにオリンピック開催地と同じ箇所での開催が義務化されたのは2000年のシドニーオリンピックからだそうです。

1960年の第1回パラリンピックの参加国は、23カ国。参加選手は400人程でしたが、第11回のシドニーでは122カ国、3,881人。第14回の今大会では164カ国、4,310人となっています。競技の種類も初期はアーチェリー、車椅子フェンシング、車椅子バスケットボールなど6競技ほどでしたが、現在では視覚障害者サッカーや車椅子テニス、柔道、ボートなど競技数は20ほどに増えてきています。

当初は障害者の社会復帰を進める目的で開催したため、「福祉的な側面」で取り上げられることが多かったようですが、徐々に「競技性」が高まっています。それと同時に、パラリンピックもオリンピックと同様に多くの問題点を抱えるようになってきています。要は「メダルが取れるかどうか」によってその注目度が異なってくるという点です。ドーピング問題や器具 (義手、義足) はカスタムメイドであるため、高額になってしまう傾向があり、それ故に経済的に豊かな選手のみが装着でき、必然的に先進国の選手が有利になってしまうということ。またクラス分けに関しても、障害の程度別で階級分けするため、一つの競技に対するメダルの数が多くなってしまい、メダル1個に比べ、その価値が低くなってしまいます。一方、統廃合により障害の軽重が厳密には異なる競技者同士が戦う種目も出てしまうでしょう。メダルの価値と競技の公平性には微妙なバランスがあるといえます。更に過去の大会では知的障害者クラスのプレイヤーの中に障害者を装っていた健常者がいたということもあったそうです。

いずれにしても、今後も更に出場者が増えれば、スター選手も現れ、超人的な技や人間の持つ無限な可能性を見せてくれるような心震える、素晴らしいプレーも数多く期待できることでしょう。



(文責: 菊地 参考文献: ウィキペディアなど)





# 広報部 対外 広報班 活動報告

広報部対外広報班が一般県民を対象に活発に啓蒙活動を展開していることをご存知ですか？対外広報班のメンバーは、例えば医療系の学校進学を目指す学生に作業療法士の仕事や養成校の紹介をしたり、一般県民や障害がある方や家族に作業療法士の提供するサービス内容を紹介したりしています。それらの中から、対外広報班が今年度実施したいくつかの活動をご紹介します。

## 一般県民を対象とした企画①

### ラジオに出演しました！

平成24年9月13日、ラジオニッポンのヨコハマろはすという番組内にて、「すこやか介護」というコーナーに出演しました。スポンサーのヤマシタコーポレーションさんからの依頼で昨年から出演を始めており、今回を含めて3回目の出演となります。今回は『腰痛予防』のテーマで、在宅介護をする人に向けた腰痛予防法を体操や道具・環境設定についてお話ししました。

ラジオ番組担当者からは、聴取者の知りたい情報として、健康に関するものは常に需要があるとのこと、出来る限り「作業療法士」という肩書きで広報活動の一環として継続していこうと思っています。

この「すこやか介護」のコーナーでの出演にあたり、介護をしている人、高齢者の聴取者を意識して話すテーマを検討しています。そのため、「作業療

法とは」というような作業療法を紹介する内容にはなりにくい点もありますが、間接的な啓蒙活動として今後もテーマを検討しながら継続していきたいと考えています。

これからもラジオ出演を継続していくにあたり、テーマに関することや、話の内容などについて県士会員の方々から様々なご意見やアドバイスをいただきたいと思っております。

(文責 水野)



## 一般県民を対象とした企画②

### 中区の区民祭に医療連合会に協力参加しました！

平成24年10月7日、ハローよこはま2012という中区民祭りに医療連合会のブース出展に協力参加しました。当日はOTの紹介パンフレットの配布、高次脳機能検査の模擬体験（今回はTrail making test：TMTのアレンジ版）を行いました。

当日は天候に恵まれずとても寒い中での開催でしたが、中高年の方を中心にたくさんの方々に来ていただきました。参加者の中には年齢平均を上回る好成績を残す方が多く、予想外の結果に我々スタッフが驚いてしまいました。

今回は、日々活動的に生活する中高年の方が多く来場している印象でした。「脳卒中や認知症になったら、こういう検査をするんだ…」との感想あり、

この体験を通して作業療法の存在を知ってもらえたのではないかと思います。

今後も様々な体験を通して作業療法を知らない方とも触れ合い、広報活動に努めていきます。

(文責 増田)



### 県士会パンフレット完成！

今年度の広報新事業として、神奈川県作業療法士会のパンフレットのリニューアル作成を行いました。これまでは3つ折りのパンフレットでしたが、今回よりA4サイズに変更、デザイン・印刷も外注することとしました。数ヶ月の取材・話し合いを重ね、ついに昨年末に完成しました。パンフレットの構成としては、身体障害・精神障害・発達障害領域をそれぞれ紹介しています。また、県内作業療法士の所属状況など最新の情報も掲載しています。

今回の製作にあたり、県内の各領域の施設の皆様にご協力いただき、写真を多く取り入れました。視覚

的にも分かり易いようなデザインになっています。

このパンフレットは県内での対外広報活動や県内養成校を卒業する学生に配布する予定です。

さっそく今年の広報活動（介護支援専門員研究大会でのブース出展）でも配布しています。来年度には県士会ホームページにも掲載し、ダウンロードも可能になる予定です。ぜひ会員の皆様も対外活動なされる際にはご活用ください。（印刷物をご希望の場合は事務局へお問い合わせください）

ご協力くださいました施設の皆様、HOLLYBELLさま、ありがとうございました。（文責 久保田）

## 第14回神奈川県作業療法学会実行委員会からのお知らせ

## 学会会場の魅力

会場運営委員会 委員長 平野大輔（国際医療福祉大学）

第14回神奈川県作業療法学会（菅原洋子学会長）の会場は、国際医療福祉大学小田原キャンパスとなります。神奈川県西部の小田原駅のホームから見えるこのキャンパスは、駅ナカあるいは駅チカと思えるような場所にあります。第13回学会の会場予定であった北里大学相模原キャンパスの敷地の規模からすると、相模原キャンパス内に小田原駅と会場である国際医療福祉大学小田原キャンパスがすっぽり入ってしまうような立地です。また、小田原駅には東海道新幹線、JR東海道本線、小田急小田原線、伊豆箱根鉄道大雄山線、箱根登山電車が乗り入れており、小田原の地は交通の便がとても良いことでも知られております。小田原駅西口から徒歩数分、走れば1分程度で到着する会場にぜひ足を運んで頂ければ幸いです。

会場は、一つのフロアーを中心にコンパクトに設定致しました。そのため、神奈川県内の作業療法士が身近に感じられ、臨床、研究、教育、地域連携など様々な側面からの交流が深められることと思います。その際、談話スペースやラウンジを使って頂き、相模湾や小田原城を眺めながら学術的な話に花を咲かせて頂きたいです。県内の作業療法士同士が顔を合わせ同一の話題を共有するだけでも、学会テーマである「つなげよう過去から未来へー作業療法の挑戦ー」の一端を感じて頂けるのではないのでしょうか。また、会場入口には福祉車両の展示、機器展示会場には福祉機器や玩具、遊具の展示、WFOT大会に関する展示、書籍販売などを行います。小さい会場ではありますが、聞くだけで終わることのない学会にしてありますので、色々と体験・体感して頂けると嬉しいです。

本学会の会場運営委員会、当日の会場運営は、小田原市内の施設勤務をされている作業療法士、国際医療福祉大学の卒業生および在学生を中心に行っていきます。そのため、会場内はもとより小田原の見所・食所・癒所についても色々な情報を持っているメンバーとなります。気軽に声をかけて頂き、学会の行き帰りの時間に小田原を満喫して頂ければと思います。

最後に、第13回学会学会長の浅井憲義先生、会場運営委員会委員長の長山洋史先生をはじめとした諸先生方が描いていた学会、会場運営に恥じぬよう、学会当日まで準備を進めていきたいと思えます。お車の乗り入れや喫煙ができないなど、諸々の制約があり不便を感じられることも多々あるかと思いますが、当日の会場運営にご理解とご協力のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

## 特別講演とシンポジウムのご案内

学会テーマ **つなげよう過去から未来へー作業療法の挑戦**

プログラム企画担当委員長 牛木彩子（国際医療福祉大学）

神奈川県の作業療法は、東日本のリハビリテーションを牽引してきました。地域リハビリテーションのシステムをいち早く整えたのも神奈川県です。40年以上リハビリテーション＝社会復帰の目標にむかってアプローチしてきた足跡を糧にして、患者や利用者の生活再建を支援するという基本を共有し、職域が広がってきた作業療法について、今後の方向性を考える企画としました。

21世紀を迎え、日本は社会経済の推移、医学の進歩により国民生活が大きく変化し、それに伴いリハビリテーション医療においても疾病構造やその予後に多様性が増してきています。一方で身体障害分野では疾患別診療報酬体制により、対象者との関わりが大きく変化しています。長年臨床の場で働いてきた作業療法士はその時々々の社会状況を睨み、対象者の様々なニーズに応えたいと日々苦闘してきました。このような経験豊富な先輩諸氏にこれまでのリハビリテーション医療の中で、作業療法士として大事にしてきたこと、そして時代に合わせて変化させてきたことについてお話いただき、これからの作業療法への示唆をお願いしたいと思っております。

発達領域では、全国に先駆けて特別支援学校に作業療法士を配置しています。日本の小児分野のリハビリテーションにおいても、作業療法士の資格制度が出来てすぐに小児施設に作業療法士を配置しました。

医療の進歩により、呼吸器を装着し自宅で生活する重症児が増え、広汎性発達障害をもち地域の学校に通う子どもたちが増え、小児の障害像は多様化し、作業療法の提供できる場も広がっています。施設療育から地域での療育への転換、小児分野における、対象児の疾病、障害の変化を、神奈川県の療育体制の変化とともに理解し、これまで提供してきた作業療法、これから新しく学ぶべきこと、広がる職域について考え、情報交換のできる場になればと思います。

精神科領域では、精神保健医療福祉の改革や心神喪失者等医療観察法の施行に伴い、入院医療主体から地域生活中心へと移行し、病院や福祉の現場にも変化がみられ始めてます。対象者に対する処遇も様々な歴史的事情を背景に大きく変化し、作業療法の現場は長期入院者中心の治療のみならず、早期退院支援や地域生活支援などが、これまで以上に強く求められるようになりました。また、作業療法の対象となる病態像も現代の社会的背景を描写するかのよう複雑、多様化してきています。こうした転換期の中で、作業療法、そして作業療法士には、今何が求められ、どのような役割を果たした方がいいのか、各講師の先生方にお話をうかがいます。

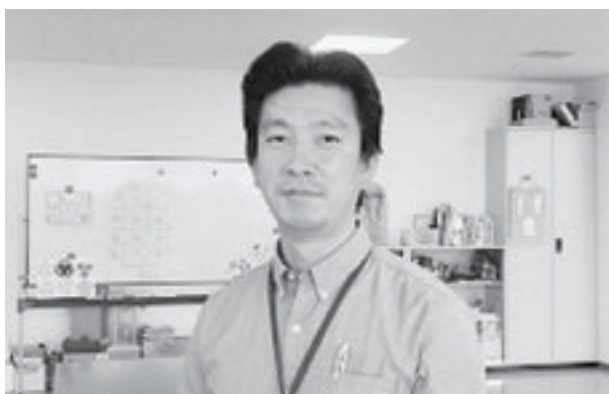
それぞれの、分野で、神奈川県で長く仕事をしておられ、転換期を経験してこられた先生方にお話をうかがいます。神奈川県を牽引してきた病院の先生（医師）、ベテランの作業療法士の先生方に直接お話を聞く機会です。質問や意見交換の時間も十分ありますので、臨床での技術的な事柄含め、さまざまな情報交換ができる場として是非、足を運んでいただければと思います。



# 地域リハビリテーション部

## 地域リハ推進班

## シリーズ「認知症の作業療法」 ベテランOTへの インタビュー



金沢隆之 先生 プロフィール

社会人経験の後、養成校へ。卒業後、相模原市役所の介護予防推進課に配属され、認知症予防の担当者となり現在7年目。企画・運営を担当している「脳を鍛える！脳活道場」は、年間約100名を対象としている。



写真1 参加者が作った家紋の切り絵

## 「認知症予防の作業療法」後編

相模原市役所 介護予防推進課  
金沢隆之 先生

—「脳を鍛える！脳活道場」の参加者との関わりを通して、学んだことを教えて下さい。

### 5年前より元気でイキイキ

平成19年に「脳活道場」に参加してくださった方々で、終了後に自主グループを発足した方々があります。5年以上も活動を継続しており、私も定期的に様子を伺ったり、相談に乗ったりしています。つい先日、久々に活動の見学に行ったのですが、皆さん全く変わらないどころか、5年前よりも元気でイキイキしている！という印象を私自身が持ちました。その瞬間、何とも言えない嬉しさが込み上げてきました。運動でもダイエットでも何でも、意思が強くないと、1人で何かを続けることは大変なことです。続けられる環境、そして仲間が大切だということを実感しました。「脳活道場」がきっかけとなり、イキイキした生活を継続するための足掛かりとなるものを、多くの高齢者に提供していきたいという気持ちを新たにしました。

### 不安なく暮らせること

Aさんについて話しましょう。Aさんは「物忘れをするから」と、いつも首からメモ用のカードを吊り下げ、忘れないように、といつもメモをしていました。Aさんと一緒に脳活道場に参加していた仲間は、プログラム中にAさんがわからないことがあって不安を抱かないように、さりげなくフォローをしていてくれました。後半には、参加者が企画する自主活動があるのですが、その企画においても、Aさんが楽しめる内容を取り入れる気遣いをしてくれました。こちらが特別にお願いした訳でもないのに、皆さんとても自然にAさんをフォローするムードが出来ていました。Aさんの良いところやできることを引き出し、できないことはさりげなくサポートして、Aさんを不安にさせない。自然な形でのサポートがあれば、Aさんも安心して楽しめるのだと実感しました。

その後、久しぶりにAさんとお会いした際に、いつも首から吊り下げていたはずのカードがないことに気付きました。Aさんにそのことを聞くと、「カードはいらなくなった」と言いました。Aさんの認知面はおそらく以前と変わらないか、多少低下しているでしょう。でも、周りの自然なサポートや安心できる環境があれば、その方の暮らし易さは変わるものですね。いつも不安でメモを手放せなかったAさんが、「メモはいらない」と言えたのですから。

—「脳活道場」は、年に100余名を対象としていると伺いました。人口約72万人の相模原市には多くの高齢者がお住まいだと思いますが、対象人数は少ないようにも感じます。市内のどこに住んでいても、等しく介護予防事業への参加機会はあるのでしょうか。

### 介護予防をもっと身近に

相模原市には約14万人の高齢者がいます。認知症予防の対象となる方すべてに、「脳活道場」へ参加していただくことはできません。現在は、市内3区それぞれの拠点で事業を展開していますが、実施会場が自宅から遠くて参加できない方も多くいるのが実情です。市の中心部のみでなく、皆さんが住んでいる身近な地域で、介護予防を実践できる環境が望ましいのです。そのためには、現在のように、遠くまで参加者が出向くようなスタイルではなく、こちらが地域に出ていかなくてはなりませんし、地域社会への介護予防普及のためには、スタッフの育成も必要です。それに加え、地域の団体（自治会、老人会、サロンや趣味のサークル等の団体等）で既に行われている活動を活かしながら、介護予防事業と連携することで、より身近な活動が作れるのではないかと考えています。

また、厚生労働省の指針にもありますが、認知症予防だけ、運動器の機能向上だけ、といった個別の領域だけではなく、他の介護予防重点項目（運動器の機能向上、うつ予防、口腔機能向上、栄養改善、閉じこもり予防）と合わせて、包括的なプログラムを実践していくべきだと考えています。

—今後は、より身近な地域で介護予防の理念が理解・実践されることが目標となりますね。

### 地域包括支援センターとの連携

そのためにも、地域包括支援センター（以下、包括）との連携は必須です。地域包括支援センターは平成18年の介護保険改正に伴い設立された機関で、相模原市には22カ所あります。基本チェックリストでリスクが把握された65歳以上の方は、包括を通して市の介護予防事業、もしくは包括が独自で行う介護予防教室への参加を勧めます。包括と市の円滑な連携によって、早期から必要な支援を行える環境を整えていきたいと思っています。

また、病院や老健に勤められているOTの方々も、包括の仕事や事業について把握しておくことをお勧めします。包括は地域に関わるフォーマル・インフォーマルなサービスの情報を数多く持っていますし、連携機関也多岐に亘ります。対象者が地域生活を維持するために必要な手立ても、一緒に考えてくれるはずですよ。是非、地域で行われている事業等にもアンテナを張ってみてください。

### OTとして、介護予防に是非とも協力を！

相模原市には常勤でOTが勤務していますが、各市町

村によって状況は異なります。しかし、どの地域でも介護予防事業、認知症予防は行われています。市町村からの委託として、病院や施設で働くOTへ介護予防事業の講師等を依頼する機会も、今後は増えていくはずです。OTの仕事の幅を広げるためにも、是非とも介護予防事業への協力をお願いいたします。

—認知症に関しては、早期発見、早期対応といったことが、近年強調されていますね。

JAOT No.7のp20～p25にも掲載されていましたが、厚生労働省の認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）の中で、認知症初期集中支援チームにOTが入りました。初期集中支援チームとは、発症後できる限り早い段階で包括的に支援を提供するためのチームです。認知症の初期対応に、作業療法士の力を求められているというのはとても嬉しいことです。認知症予防・対策にOTが関わって、よい成果を生み出した事例を、積み重ねていきたいです。また、OT協会もこの分野に関する研修を実施するようなので、是非とも皆さんにも積極的に参画していただきたいと思います。

—最後になりましたが、県士会の若手OTのみなさんへのメッセージをお願いいたします。

是非、積極的に介護予防に関わって欲しい、地域に出てきて欲しいのです。先日、厚生労働省の認知症予防マニュアルが新しくなりましたが、そこにはPTが作成した有酸素運動のプログラムが大きく掲載されています。OTも予防に関して、実践と研究の両面から、より多くの方々に関わっていただきたいと思います。

また、先日ある大学で介護予防に関する講義を行いました。その際に「自分の学生時代には、学校で介護予防について習うことなどなかった」と改めて思いました。これからは介護予防の視点を当たり前を持ったOTが多く世に出てきます。治療だけでなく、予防の目線をしっかりを持ったOTとして、どうぞご活躍ください。

—行政の作業療法士として、開拓者として、大変なお立場だと思いますが、今後ともどうぞご活躍ください。どうもありがとうございました。

（文責：河村）



写真2 介護予防事業の様子

# OTのためのIT講座

## 最終回 続きはWebで！



講師  
石川 敢也さん



松本 2010年5月から始まったこの連載も今回で最終回です。石川先生、今までありがとうございました。



石川 いやいや、松本さんこそ、今まで辛抱強くお付き合いいただきまして、ありがとうございました。あっという間の3年間でしたね。



松本 そうですね。最初に「OTがいてPTがいてSTがいるなら、そこにITが紛れ込んでもいいんじゃないか？」なんて、飲みながら企画を話したのが昨日の事のようにです。



石川 あはは。(笑) 駄洒落の完成度はともかく、パソコンやインターネットに苦手意識のある専門職の皆さんのお役に立てるのではないかと思います。



松本 もちろん役立ってますよ！



石川 そう言ってもらってホッとしています。(笑)



松本 そこですね、今回は、この長かったような短かったような3年間の連載を振り返って復習をしてみたいと思ってるんです。



石川 なるほど、分かりました。



松本 記念すべき第1回はExcelでしたね。「迷ったら右クリック！」というアドバイスが太字になっています。懐かしいですね。



石川 そうですね。Excelでは「ひとつのセルの中で改行するには[Alt]キーを押しながら[Enter]を押す」ということと「不連続な複数のセルを選択するには[Ctrl]キーを押しながらクリックしていく」という、知っている人からすれば些細なことが意外に好評でした。



松本 その次はGoogleの「ウェブアルバム Picasa」の使い方や、自分が決めたキーワードでクリッピングしてくれる「Googleニュース」などを教えてもらいました。



石川 写真をインターネットで共有するというのはFacebookなども普及してきたので、だいぶ広がってきたように思います。でも「Googleニュース」は未だに知らない人が多いですね。



松本 う〜ん、「Googleニュース」は専門職には特に便利なんですけどね。そして第3回ではPowerPointですね。「自分のパソコンにPowerPointが入っていないくて困ったことがある」という声にも応えてくれます。



石川 PowerPointだけを追加で買おうとすると高い（現在は¥15,000程度）ですしね。そもそも、今すぐPowerPointのファイルを開きたいのに、そういう時はだいたい夜中だったりして。(苦笑) そこで「Google Docプレゼンテーション」をインターネット上で使いましょうという提案でした。今は無料の「PowerPoint Viewer」をダウンロードするという手もありますね。



松本 「Google Doc」は、ファイルが開かないときの応急処置として使うなど、何度か取り上げられていますね。



石川 そうですね。「Google Doc」は便利で無料だし、インターネットさえあればWindowsやMacintoshなどの環境も関係ないし、iPadやスマートフォンなどでも使えるので、ぜひ知っていて欲しいですね。



松本 そしてショートカットキーの特集に続いていくわけですが、これは良かったですね。[基礎編]や[文字入力編]など、パソコンの達人になったような錯覚に陥ります。(笑)



石川 今も机のシートの下に置いて使ってくれているという話も聞きました。嬉しいですね。



松本 第6回は私のリクエストで、「デジカメで撮った写真のサイズ変更を一気に行う方法」でした。





石川 松本さんは大丈夫ですが、フリーウェアをインストールしてみようという内容で、ちょっとハードルが高かったかもしれません。どのあたりの習熟度をターゲットにして読んでもらおうかというのは、毎回悩むところでした。OTの皆さんのITスキルは様々ですからね。



松本 いやいや、知っているつもりでも私も毎回勉強になりました。第7回は冒頭で大震災のことについて触れています。



石川 内容も震災情報のサイトを紹介するものでしたね。



松本 携帯端末でも使えるようにQRコードも載っていて、非常時に役立てるという強い意思を感じました。



石川 第8回では「自分でメモリの増設する」や「Googleカレンダーでスケジュールを共有する」といった内容でした。これもちょっとハードルが高かったかも知れませんね。その後は円高の影響などでメモリの価格が急に下がったので、自分で追加することも少なくなったと思います。



松本 そして第9回ではスマートフォンの便利な技ですね。これは2011年の9月の記事ですから早いですね。



石川 iPhoneでもAndroidでも役に立つようにと、「ピンポイント天気予報」などのWebサービスを中心に紹介する記事でした。あの頃の機種もそろそろ買い換えの時期でしょうか。なんだか懐かしい感じがしますよ。



松本 そして、その次の第10回のタイトルが「Facebookを始めてみませんか？」なので、ITの世界は移り変わりというか進歩が早いですね。



石川 そうですね。この記事ではプライバシーに関して「自分の[友達]は選んでも、[友達の友達]は自分では選べない」という警告をしています。公開範囲の設定には注意した方がいいですね。続く第11回は「Facebookでお困りですか？」なので、Facebookはちょっとやっかいかもしれないですね。(苦笑)



松本 至れり尽くせりの国内の会社が運営しているサービスと比べると、Facebookは仕様変更の案内などが丁寧とは言えない印象もあります。「コメント欄の改行は[Shift]を押しながら[Enter]です」という操作の説明から「アプリは玉石混合で注意が必要です」という大事なことで丁寧の説明してくれています。



石川 挙動不審なアプリは、この後に大きな問題にもなっていますからね。



松本 そして、「プリンタのインク代を節約する方法」や「新しいワードが使いにくい」といったQ&Aを集めた第12回の記事を挟んで、「OTのための情報セキュリティ」の特集に進んでいくんですね。



石川 この辺りは最近の内容という印象です。今、読み返してみると文字が多くて地味なページで申し訳ない。(笑)



松本 いえいえ、とても勉強になりました。個人情報の保護とか予期せぬデータの流失といった、ニュースも目にしますし、我々の仕事も気をつけなきゃならないですからね。



石川 そう言っていただいて良かったです。この「セキュリティ」の次は、もう前回の「Wordのフィルが開けない!」ですから、早いものですね。



松本 そうですよ。いやあ、3年間、ありがとうございました! まだまだ教えて欲しいテーマがたくさんあったんですけどね。



石川 松本さんも編集班の皆さんも、お疲れさまでした。そういえば、松本さんと話ただけで記事にならなかったテーマもありましたね。



松本 ありますね。特に「OTのためのiPad活用術」とか「今年こそ! 脱! トホホな年賀状」とか、ボツにするには惜しくて、とても残念です、申し訳ない。



石川 いえいえ、始まりがあれば終わりもありますよね。ちょうど私もこの春から、約20年ぶりに母校に帰って大学院に入る予定になっているので、ひとつの区切りとして良い時期なのかなとも思っています。



松本 そうなんですね! お仕事を続けながらの勉強で大変だと思いますけど頑張ってくださいね。



石川 最後に、今まで読んでいただいた皆さんに、私からのささやかなお礼というか、アフターサービスとして「OTのためのIT講座 電子版」を用意しました。私の事務所「AFINAX」で検索してPDFファイルをダウンロードしてください。



松本 タブレットやスマートフォンで読めるんですね! さっそくやってみます!



石川 長い間のご愛読、ありがとうございました。では、続きはWebで!



### 「OTのためのIT講座 電子版」のご案内

下記のURLにあるリンクから「OTのためのIT講座」のPDFファイルをダウンロードすることができます。ご活用いただければ幸いです。

<http://www.afinax.com/>

# 各部からの報告

## 地域リハビリテーション部

### ◎《日本ALS協会神奈川県支部会員へのアンケート調査》

2月～3月にALS当事者家族へアンケート調査を実施いたします。

内容はコミュニケーションとリハビリテーションについて現状の把握をするものです。

結果は県士会ウェブサイト等で公開するとともに、関係機関への情報提供をおこないALS等のリハビリテーションの発展に寄与したいと思っております。

### ◎《訪問リハ実施施設の掲載》

既にご存じの方も多いと思いますが、県士会ウェブサイト「地域リハの“わ・輪・和”」というコンテンツに掲載しています。<http://kana-ot.jp/wpm/cbr/>

その中に“訪問作業療法実施施設”をみなさまの協力のもと掲載いたしております。

今年度は作業療法士の所属施設のみならず、理学療法士や言語聴覚士の所属施設も掲載するように適用範囲を拡大いたしました。

神奈川県民への有益な情報源ですので、未だ掲載していない事業所の方々には是非ともご協力をお願い申し上げます。

### ◎《日本作業療法士協会の研究事業協力》

日本作業療法士協会の研究事業「生活行為向上支援としての居宅療養管理指導事業のあり方検討事業—訪問介護との連携による家事自立支援事業」に神奈川県士会が協力しております。

概要は「訪問介護が実施するサービス内容を、我々OTがプランニングする」ことであり、神奈川県士会会員には訪問介護のサービス提供責任者と同行訪問し、対象者のプランニングを実施していただいております。

詳細は日本作業療法士協会の報告を参照ください。

### ◎《関連雑誌》

『地域リハビリテーション』第8巻第3号(2013年3月15日発行)

『作業療法ジャーナル』第47巻第5号(5月号)

共に三輪書店より発行(文責:地域リハビリテーション部 木村)

## 財務部

### ◎会費納入方法変更について

神奈川県作業療法士会では平成25年度より会費納入方法を「銀行口座からの引落とし」へ変更します。

平成25年度については銀行口座引落としと郵便振替の会費納入額は同額としますが、平成26年度より郵便振替を利用する方に対し、郵送料や事務経費を800円上乗せした金額を請求させていただきます(2013年2月理事会承認)。

口座引落としを利用することで、会員の会費納入の手間を省けると同時に会費徴収にかかる経費を年間40万円以上削減することができます。また、年度初めに会費を回収することにより県士会活動費を早期に確保し、安定的な活動が提供できるようになるというメリットがあります。上記の件は2012年7月の理事会承認されました。

### ◎《今後のスケジュールについて》

すでにみなさまに送付してある銀行口座引落としの書類を事務局まで提出してください。引落としの日程は以下の通りとなります。改めてのお知らせは致しませんのでご了承ください。

平成25年2月15日までに書類が提出された場合: 4月4日に引落とし

平成25年3月18日までに書類が提出された場合: 5月7日に引落とし

平成25年4月15日までに書類が提出された場合: 6月8日に引落とし

平成25年5月15日までに書類が提出された場合: 7月4日に引落とし  
平成25年6月18日までに書類が提出された場合: 8月5日に引落とし  
平成25年7月16日までに書類が提出された場合: 9月4日に引落とし

### ◎《会費の「銀行口座引き落とし」Q&A》

#### 1. なぜコンビニ決済から銀行口座引き落としにするのか?

毎年の会費納入の手間が省けることや経費削減(年間40万以上)、運営費を安定的に確保することなどが目的です。

#### 2. いつ決まったのか?

これまで検討を続けていましたが、平成24年7月12日の理事会で承認されました。

#### 3. 口座引落としの手続きをしなかった場合は?

基本的にはすべての会員に銀行口座引き落としを利用していただきたいと思っております。なお、書類が提出いただけない場合には郵便振替のみで対応致します。平成26年度以降については、銀行口座引落としを利用されない会員には郵送料や事務経費を合わせた800円を上乗せした金額を請求致します。コンビニ決済との併用は費用の関係で実施できません。なお、新入会員については入会手続き時に銀行引落としの手続きをしていただきます。

#### 4. 個人情報の扱いは?

みなさまから提出いただいた関係書類は鍵のかかる場所での保管し、細心の注意を払います。

## ウェブサイト管理委員会

### ○いいよっ!

<http://www.facebook.com/kaotwebkan>

よこ太: いーいーなうーいーなうーにーんげーんっていいなうー

ハマ子: あら? 人間になりたくなったの? ベム。

よこ太: 違うよー、Facebookの「Like!」だよ。

ハマ子: それなら「いいな」じゃないでしょ。

よこ太: 「まんが日本昔ばなし」が懐かしくてさ。

ハマ子: その歌、エンディングでしょ!? 今の若い人、知らないって。で、「Like」がどうしたの?

よこ太: 県士会サイトのFacebookページって、いつの間にか「いいな」してくれている人が増えてるんだよー

ハマ子: あーまー新着情報がわかるしね。逆を言えば、新着情報しか流れてこないけど、それはそれで便利よ。

よこ太: うん、ウェブ管的知恵袋の「県士会白書」を見ているとさ「いいな」している人の数の推移がわかるんだけど、H24年4月が「24いいな」で、最新のH25年1月がなんと「76いいな」!

ハマ子: 「い・い・ね」だってば。でもすごい、3倍増だね。

よこ太: そー、中日の大島選手と一緒だよ!

ハマ子: それ、年俸の話でしょ。あー私のお給料も... あっえーと、Facebookをやっている作業療法士の皆さんは、ぜひ県士会サイトのFacebookページに「いいね」をしてください! あなたの給料は据え置きよ! フランチェン。

よこ太: いいよっ!

(文責: ウェブサイト管理委員会 作田)

### 平成25年1月 アクセスランキング

- 1位 作業療法Tips & PDF 26065件
- 2位 講習会・研修会 17949件
- 3位 必見! OTのすごい技・アイデア集 11067件
- 4位 求人情報掲載板 9373件
- 5位 再学習☆応援講座 4859件

### 平成25年1月 県士会ブログランキング

- 1位 ウェブ管的知恵袋 425件
- 2位 Hideki Tanaka's Blog 342件
- 3位 ALS支援ブログ@KAOT 227件

更新件数: 53件 訪問者延べ数: 20351人

Kanaからの手紙発行回数: 16回 登録者: 173名

Twitter (ID:kaotwebkan): フォロアー226名

## 理事会 報告

### 平成24年度 第5回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成25年2月7日（木）19:00～22:20

場所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：浅井、錠内、奥原、木村、小峰、作田、鈴木、富山、原、福留、三浦、澤口

委任理事：渡邊、机、中西、野々垣 出席監事：清宮、長谷川

その他：松本（広報部ニュース班）、酒井（広報部対外班）、沼田（福祉用具委員会）、金山・一志（事務局書記）

#### ●事務局（澤口事務局長）

##### 1) 渉外関連

①神奈川県保健衛生表彰受賞 田中節子先生（横浜YMCA学院専門学校）授与式 日時：H24/11/14(水)14:00～

②神奈川県栄養士会設立40周年祝賀会

日時：H24/11/16日(金)出席：錠内副会長

③平成24年度神奈川県リハビリテーション協議会

日時：H25/ 1/11(金)出席：木村理事（渡邊会長代理）

④賀詞交歓会

a 県栄養士会 H25/ 1/11(金) 出席：浅井副会長

b 県病院協会 H25/ 1/16(水) 出席：渡邊会長

c 県放射線技師会 H25/ 1/16(水)出席：錠内副会長

d 県臨床検査技師会 H25/ 1/18(金)出席：浅井副会長

e 県看護協会 H25/ 1/24(木)出席：澤口事務局長

2) 県士会・会員派遣依頼

①認定審査委員など推薦依頼（各任期：H25/ 4/ 1～H27/ 3/31）

以下現任者継続にて推薦済み。

a 川崎市 介護認定審査会委員（1名→3名へ増員）

麻生区：湯澤大輔（麻生リハビリ総合病院）

多摩区：名古屋和茂（横浜YMCA学院専門学校）

高津区：金子美鈴氏（関東労災病院）

b 厚木市 厚木市介護認定審査会委員（1名）

玉垣幹子（神奈川リハビリテーション病院）

c 相模原市 障害程度区分判定等審査会委員（4名）

坂本豊美・渡邊 誠・湯浅まり（北里大学医療衛生学部）

斎藤和夫（淵野辺病院）

d 小田原市 介護認定審査会委員（3名）

菅井京子・館下潤一（国府津病院）、佐藤良枝（普我病院）

e 小田原市箱根町真鶴町湯河原町 障害程度区分認定審査会委員（1名）

鈴木孝治（国際医療福祉大学小田原保健福祉学部）

3) 後援名義使用依頼 ⇒①～④理事MLにて承認

①神奈川県介護支援専門員研究大会（H25/ 2/ 3）＜主催：神奈川県介護支援専門員協会＞

②第9回地域リハビリテーションフォーラム（H25/ 2/ 9）共催依頼＜主催：神奈川県総合リハビリテーション事業団地域支援センター＞展示コーナー参加依頼⇒広報部にて担当予定であったが都合つかず、事務局（名古屋氏・大郷氏）にて対応

③第6回神奈川県特定施設研究大会後援依頼（H25/ 2/22）

＜主催：かながわ福祉サービス振興会＞

④県建築士会福祉部会「専門職連携による住宅改修」研修会（H25/ 3/16）（場所：平塚市民センター中会議室）

⑤災害リハ・コーディネーター研修会（H25/ 2/16）＜医師・看護師・OT・PT・STの5団体共催＞への参加者推薦（1名）⇒OT協会を通じて参加者推薦（1名）の依頼があり、事務局にて神保武則（北里大学病院）を推薦したが、研修会主催側より、今回神奈川県士会は神奈川県は5団体からの選出が揃わなかったため参加見送りとの連絡あり。

⑥「神奈川県保健福祉局：神奈川県保健医療計画改定案；平成25年度～平成29年度」のパブリックコメント（期間：平成24年12月末～平成25年1月末）に関して⇒三役会にて検討し、回答した（主に人材育成に関して）

5) 庶務関連

①次期役員選挙（H25/H26期）について

選挙管理委員会より告示（H25/ 1/10）。H25/ 3/12候補者締め切り、H25/ 4/21総会時に投票予定

②神奈川県士会正会員実態調査

今後、当会の事業計画を立案する際の資料とすることが目的

で実施 1月号のニュースに同封し、3月末締め切りとする

6) WFOT2014大会への協力

①事務局内にWFOT対応小委員会（仮称）を作り、まず各理事がWFOT2014大会の組織委員会傘下の各委員会に所属し、各理事は各実行委員会委員長の指示のもと、活動を行うことを提案⇒傘下の各委員会に参加し協力していく方向で次年度継続審議

②学生新人対象プログラム委員会から事業協力依頼について⇒活動を支援するなら活動報告書と収支決算書が必要。どこが窓口になるか上記①の課題とあわせ、協力していく方向で次年度継続審議

#### ●財務部（野々垣理事）

1) 次年度予算案について（別項目）

2) 会費の銀行口座引き落しのインフォメーションについて 160号のNewsに口座引き落しの日程（1回目の引落しは4/4）、今後のスケジュール、Q&Aについて掲載する。サイトについては変更済み

3) 会費の銀行口座引き落とし手続きの促しについて（経費上乘せ請求について）

今日現在、口座引き落としの手続き完了者は800名程度。会費の安定確保や経費削減、事務量軽減を目的に会費納入方法を口座引落しに一本化した。平成25年度中に繰り返し口座引き落としの促しを行い、それでも手続きを完了しない会員に対し、平成26年度から会費に諸経費800円（郵送料や事務経費など）を上乗せした額を請求する方向性とした ⇒ 承認

#### ●学術部（福留理事）

1) 研修会報告 11月・12月・1月と各1本開催

3月までに3本開催予定

2) 平成24年度課題研究助成 郵送と神奈川県OT士会HPによるアンケートご協力の案掲載について依頼 ⇒ 承認

#### ●教育部（奥原理事）

1) 研修会報告 2月に研修会3本開催予定

2) SIG団体承認申請受理

団体名：横浜市北部地域リハビリテーション連絡会  
申請条件に問題なし ⇒承認

#### ●広報部（小峰理事）

1) 対外広報班

①ラジオ出演（ラジオ日本『峰竜太のミネスタ』『すこやか介護』のコーナー）

予定日時：H25/ 2/21(木)10:15～10分間 今回より活動場所が東京となる

②瀬谷養護学校のお祭りブース出展参加

日時：H24/12/15(土)教室1室を使用して体験型ブース（革細工・フェルト細工）出展 対象：主に近隣の小学生・養護学校の教員

③県士会パンフレット作成の完了 ご協力頂いた施設へ配布・郵送予定

今後使用する場合はパンフレット送付の申込書を記入

④相模原市民祭りのブース出展

日時：H25/ 4月上旬予定 今後企画内容を計画予定

#### ●地域リハビリテーション部（木村理事）

①生活行為向上マネジメント研究事業（OT協会）への協力

今年度の老人保健健康増進等事業に生活行為向上マネジメント関連の研究事業である「訪問介護との連携」に関するデータ収集の依頼について、神奈川県士会員より10名程度を募り11月に対象者宅への訪問を実施した。現在データ解析中。また、2月に横浜市福祉サービス協会の職員（約200名）を対象に生活行為向上マネジメントの講習会を実施予定

※紙面の都合で一部割愛・詳細は県士会Webへ（文責：澤口）





求人

## 作業療法士オープニングスタッフ 募集

平成26年5月、川崎市に初めて認知症疾患専門病院をオープン致します。認知症専門病院として介護や福祉と連携し、早期復帰を目指した全国に誇れる新しい病院を一緒に創っていきませんか。

**施設概要** 病床数300床（全認知症専門病床）  
認知症デイ・ケア  
**募集人員** 常勤 10名（オープニングスタッフ）  
**給 与** 当院規定により優遇致します。  
昇給年1回 賞与年2回  
**勤務時間** 8:30～17:30 土曜 8:30～12:30 ※予定  
**休 日** 日・祝・土（午後）、1週40時間内による  
病院指定休、年末年始等  
**応募方法** 電話連絡の上、履歴書（写真貼付）、免許証（写）  
を下記準備室まで郵送ください。  
**アクセス** 東急田園都市線たまプラーザ駅、溝の口駅  
小田急線柿生駅、新百合ヶ丘駅等からバス  
バス停より徒歩1分  
※田園都市線あざみの駅より職員送迎バス予定  
**担 当 者** 開設準備室事務長 国井 弘 善  
〒222-0011 横浜市港北区菊名4-3-11  
横浜メディカルグループ本部  
電話 045 (430) 5445  
FAX 045 (401) 2640  
E-Mail kunii@ymg.gr.jp

## 医療法人花咲会 かわさき記念病院

〒216-0013 川崎市宮前区潮見台20-1  
<http://www.kkh.ne.jp>



求人

## 施設名 パシフィックホスピタル

## 募集職種 作業療法士 募集

野比海岸を一望できる、豊かな環境に立地した病院です。

**募集人数**：1～2名  
**資 格**：有資格者  
**勤務内容**：病棟業務及び、デイケア・訪問リハ業務担当あり  
**勤務時間**：8:30～17:00  
**休 日**：週休2日 年末年始休暇、夏季休暇、その他  
**待 遇**：基本給、調整手当は規定による  
**勤 務 地**：京急久里浜駅からバスで15分 車通勤可  
**概 要**：入院ベッド数300床（一般病床41床、療養病床205床、介護療養型病床54床）  
**応募方法**：電話連絡の上、写真付履歴書を送付。 随時見学可能  
**連 絡 先**：〒239-0841 横須賀市野比5丁目7番2号  
TEL 046-849-1570 FAX 046-849-1520  
**担 当**：リハビリテーション科 松田  
**メールアドレス**：pacific-re-habiris@shore.ocn.ne.jp  
**URL**：http://www.pacific-hospital.jp



求人

## 施設名 むつみの家

## 募集職種 作業療法士・理学療法士

楽しみながらリハビリが行えるように、セラピストの方々の意見を尊重します。

**募集人数**：2名  
**資 格**：作業療法士  
**勤務内容**：デイサービスでのリハビリ  
**勤務時間**：9:00～18:00（常勤） 9:00～15時（パートの場合、時間曜日応相談）  
**休 日**：日・祝・その他シフトによる休み・年末年始・夏休み（年間休日数124日）  
**待 遇**：社員221,000～280,000円+賞与夏1.5ヵ月、冬2ヵ月、パート時給2,500円  
**勤 務 地**：横浜市南区睦町1-8-3  
**概 要**：デイサービス  
**応募方法**：電話またはメールにてお願いいたします。  
**連絡先**：045-743-6588  
**担 当**：管理課 加藤  
**メールアドレス**：kato@clinic.or.jp  
**URL**：http://www.clinic.or.jp



求人

## 作業療法士（契約）募集

**募集人員**：若干名  
**就労期間**：平成25年4月1日～翌3月31日  
**応募資格**：作業療法士免許を有する方  
**待 遇**：非常勤職員（契約職員）  
**給与、手当**：当院規定による（期末手当、通勤手当、及び超過勤務手当 相当額支給）  
**※年収例**：約440万円（実務経験5年以上）  
（年2回の期末手当相当額、毎月20時間程度の超過勤務手当相当額、及び毎月15,000円の通勤手当相当額を含む。）  
**勤務日、休日**：月～日、4週8休制  
**勤務時間**：8時30分～17時00分（昼1時間休憩）  
勤務条件、応募方法等の詳細については、当センターのホームページをご参照ください。

《作業療法士（アルバイト）も募集中です！》

## 横浜市立脳血管医療センター

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-1  
TEL 045-753-2613（直通）FAX 045-753-2859  
管理課庶務係 採用担当者  
Eメール：by-ysbckanrika@city.yokohama.jp  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/nou/>



## 求人

## ～在宅に興味のある作業療法士さん～

在宅介護を中心に30年の実績があるセントケア。介護会社ならではの、介護と医療の連携でお客様の在宅生活をサポートしています。在宅に興味のあるOTさん募集中です！！

**事業内容** 訪問看護 訪問介護 訪問入浴 デイサービス グループホーム 福祉用具貸与  
居宅介護支援 住宅リフォーム ケータリング 福祉用具販売 ショートステイ 等  
☆☆☆在宅介護を中心に神奈川県内に64の事業所を展開しています。☆☆☆

**募集人員** 正社員 契約社員（非常勤） ※各ステーションで随時募集をしております。

**待遇** 当社規定による。正社員は賞与年2回・退職金制度あり

**福利厚生** 社会保険完備 交通費全額支給 各種研修制度 制服貸与 財形貯蓄 有給休暇  
育児休暇 介護休暇 育児短時間労働制度 社員持株会制度 慶弔見舞金 健康相談 等

**勤務時間** 9：00～18：00（非常勤は応相談）

**休日** 月8日～10日（基本土日休み）、有給休暇、特別休暇等 ※非常勤の方は勤務希望に応じます。

**勤務地** ○訪問看護ステーション横須賀 ※平成25年春オープン！

横須賀市汐入町2-3-8（京浜急行線 汐入駅 徒歩1分）

○訪問看護ステーション大和

大和市つきみ野2-7-18（東急田園都市線 つきみ野駅 徒歩12分）

○訪問看護ステーション川崎宮前

川崎市宮前区馬絹1451（東急田園都市線 宮崎台駅 徒歩10分）

○訪問看護ステーションあさお

川崎市麻生区百合ヶ丘1-4-13（小田急線 百合ヶ丘駅 徒歩5分）

○訪問看護ステーション横浜

横浜市南区永田東1-1-7（京浜急行線 井土ヶ谷駅 徒歩3分）

**応募方法** 下記よりお問い合わせください。会社説明会も随時行っています♪

## セントケア神奈川株式会社

本社：〒231-0011 横浜市中区太田町4-55 横浜馬車道ビル7階

採用担当：碓井伸也 神田玲子

電話：045-227-8871 FAX045-227-8873 HP <http://www.saintc-k.com> メール [saiyo-k@saint-care.com](mailto:saiyo-k@saint-care.com)



## 研修会

## 機能的で快適なシーティングセミナー

**主催**：機能的で快適な姿勢を考える会「ドリーム」

**日時**：2013年4月7日（日曜日）13:30開始 16:30終了

**場所**：会場：厚木市文化会館

**アクセス**：小田急線「本厚木」駅 徒歩13分

**内容**：「身体を自由に動かしづらい子ども達のシーティング」というテーマにて、キャスパー・アプローチによるシーティング実践セミナーを開催いたします。NPO法人ポップンクラブのご協力を得て実現した企画です。講師は長年にわたって肢体不自由の人の道具作りに携わっており、全国的にご活躍なさっている村上 潤氏にご講演頂きます。セミナーでは、講師の経験に基づいた豊かな発想と思考力により、20年間で得たケースの結果から裏付けされた全く新しい発想の姿勢保持理論「キャスパー・アプローチ」の導入前・後の実例をご紹介します。

**対象**：日頃、姿勢保持に関わっている専門職の方

**参加費**：1,000円

**定員**：30名

**申込み方法**：MailまたはFAXにてお願いします。

**Mail**：imax@canvas.ocn.ne.jp

**FAX**：050-3737-1927

**申込み締切**：2013年4月5日

**生涯教育ポイント**：「なし」

**問い合わせ**：MailまたはFAXにてお願いします。

**Mail**：imax@canvas.ocn.ne.jp

**FAX**：050-3737-1927

株式会社アイマックス 内

機能的で快適な姿勢を考える会「ドリーム」担当：今野



## 研修会

## 湘南OT交流大会 ～オールスター祭～

**主催**：湘南OT交流会

**日時**：H25年5月5日（日）～5月6日（月）

5/5 10：00開演 16：00終了予定

5/6 9：50開演 16：00終了予定

**場所**：茅ヶ崎市民文化会館 小ホール

茅ヶ崎駅徒歩7分

**内容**：人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル、作業科学に精通する著名なOT8名を招集し、次世代パラダイムである作業行動パラダイムへの道を開いていきます。

**講師**：藪脇健司、友利幸之介、齋藤佑樹、島谷千晴、南征 吾、澤田辰徳、上江洲聖、藤本一博

**対象**：内容にご興味を持って頂ける方

**参加費**：6000円（学生2000円）

**定員**：先着350名

**申込み方法**：下記掲載ページをご参照の上、専用フォームからお申し込みください。

## 湘南OT交流大会特設ページ

[http://1st.geocities.jp/shounan\\_ot/allstar.htm](http://1st.geocities.jp/shounan_ot/allstar.htm)

**申込み締切**：H25年4月30日

**生涯教育ポイント**：各日1ポイント

**問い合わせ**：下記ページからお問合せ願います。

## 湘南OT交流会ホームページ

[http://1st.geocities.jp/shounan\\_ot/index.htm](http://1st.geocities.jp/shounan_ot/index.htm)

連載

## 青年海外協力隊体験記

## ～大草原の小さな私～

第13回 タイで研修に参加した！

青年海外協力隊 平成23年度2次隊 川島由貴子



●執筆者プロフィール

川島（旧姓 堤）由貴子

大学卒業後一旦就職するも、退職。その後、作業療法士資格を取得し、都内の病院へ3年間勤務する。平成23年3月退職し、7月から約2カ月の訓練を経て、9月より協力隊員としてモンゴルに赴任。国立外傷センターにて活動中。

モンゴルに赴任してはや3分の2が過ぎた。あっという間に帰国の時を迎えるんだらうなあとと思うと、私は、今この国に何ができているのだろう、と自問自答する日が増える。OTとしての運動療法の技術だけでなく、リハビリや福祉、障がいというものに対する考え方を大切にしたい、伝えたいと思って活動してきたが、それがなかなか難しい。特に、我がリハビリ科の看護師で、自ら脊髄損傷（両下肢完全麻痺）でもあるメガさん（この方の詳細は本連載の第9回と第12回で紹介しています）。彼は、リハビリという概念やサービスが無かったモンゴルで、自分で人生を切り開いて社会復帰してきた人だ。その分、自負も強く、自分を曲げないところがある。「障がい」に対する彼の持論は、こうだ。「障がいは、その人の頭の中にある。その人が、なんでもできる、という強い気持ちを持つことが大事」。私もこの意見に共感できる。但しメガさんは頑固に、この持論以外の考え方や意見をなかなか受け入れない。例えば、「社会の中の一般の人々が、障がい者に偏見を持っているならば、彼らが障がいを作っているという考え方もあるのではないか。彼らの考え方の中に障がいがあるのではないか」という他人の意見を聞いても、取り合わないところがあった。私が「他の人の意見も聞いてみていいのでは？」と説得しようとしても、「この話はやめよう」となる。深く考える、じっくり考えるより先に、どんどん行動しなければやってこられなかった、という背景もあるのだろう。モンゴルでは、脊髄損傷受傷後の患者が寝たきりになってしまう例も多く、まず離床を進めなければという強い思いから「障がいは、その人の中にある」という考えが生まれたようだ。また、受傷した人やその家族は安静が必要だと思いつつも傾向があり、それを強く主張しなければ、なかなか信用してくれなかったという背景もあり、余計にその考えに固執してしまったという面もあるのだろう。

そんな中、JICA国際協力専門員のPTの久野研二氏を中心としてタイで開催された「障がいと平等」「権利」「CBR」についての研修にメガさんと参加することになった。これは「リハビリとは何か」「障がいとは何か」についてメガさんとじっくり話す機会になるかもしれないと考えた。またメガさんにとって、他の国の活動や意見を知る、他人の意見をじっくり聞くという機会

になるのではないかと期待した。

研修中、障がい者自らが中心となり、自分の障がいを変える事は困難でも、社会を変える活動をしているという例に、メガさんはじっと目を凝らし、私の拙い通訳に耳を傾けていた。実際に活動している人々の話にはやはり説得力がある。

今回の研修は、自分で考え、色々な人の意見を聞いて学ぶ、という点に主眼が置かれていたように思う。よく考え、よく人の意見を聞いた3日間の研修であったが、参加後少し彼の中で何かが動いたようだ。「自分の活動は社会を変える大きな活動の最初のステップだ」とメガさんは話した。

13回にわたり連載してきた「青年海外協力隊体験記～大草原の小さな私～」は、今回で連載終了になります。長い間ご愛読ありがとうございました。この後の私のモンゴルでの活動については、神奈川県OT士会ウェブサイトのプログで紹介いたします。ぜひご覧ください。



## CBR:Community Based Rehabilitation

ILO,UNESCO,WHOにおいて「CBRは、障害をもつすべての子どもおよび大人のリハビリテーション、機会均等化および社会統合に向けたコミュニティ開発における戦略の一つである。CBRは、障害者本人、その家族およびコミュニティ、ならびに適切な保健医療・教育・職業・社会サービスが一致協力することによって実施される」と定義されている。

## 国際協力専門員

「専門家の中の専門家」として、国内外でJICAが実施する国際協力事業で重要な役割を担うプロフェッショナルな人材です。契約期間は通常1年から5年です。各分野において高い専門性と豊富な経験を活かしながら、海外では、政策アドバイザー、プロジェクトリーダー等を務めます。また、国内ではJICAが実施する各種事業の企画・実施・評価への助言を行うなど、シニアアドバイザーとしての業務を担います。（以上、JICAホームページより抜粋）

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース < 160号 > 2013年3月発行（年6回発行）

発行責任者 渡邊慎一

編集責任者 小峰一宏

編集担当 松本政悦・菊地美帆・千葉友浩・矢野竜也・川島由貴子・本間嗣崇

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号 TEL/FAX: 045-663-5997  
月火水木金 10:00～16:00 メールアドレス: jimuk@kana-ot.jp一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.jp>

作業療法 神奈川

編集